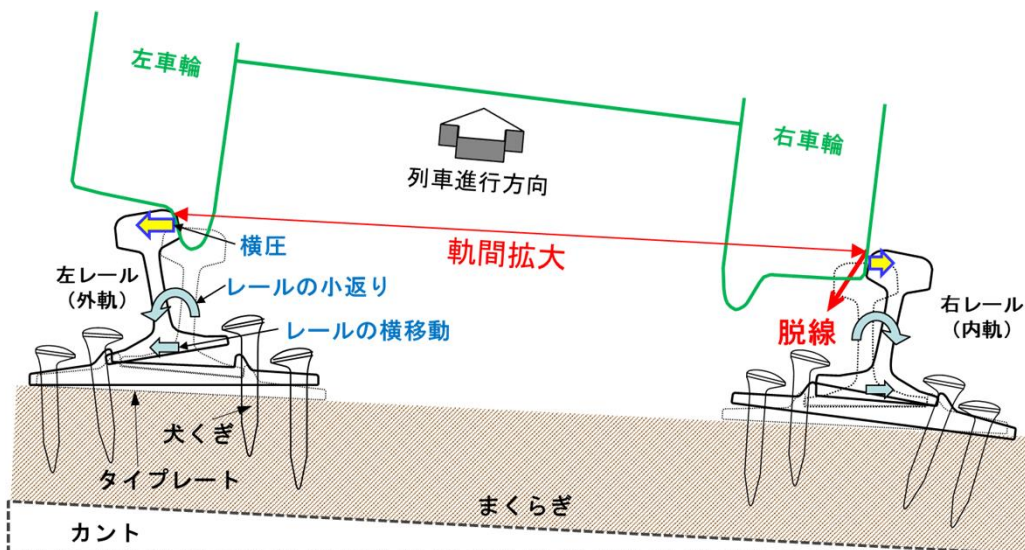


いすみ鉄道株式会社 いすみ線 列車脱線事故(1/2)

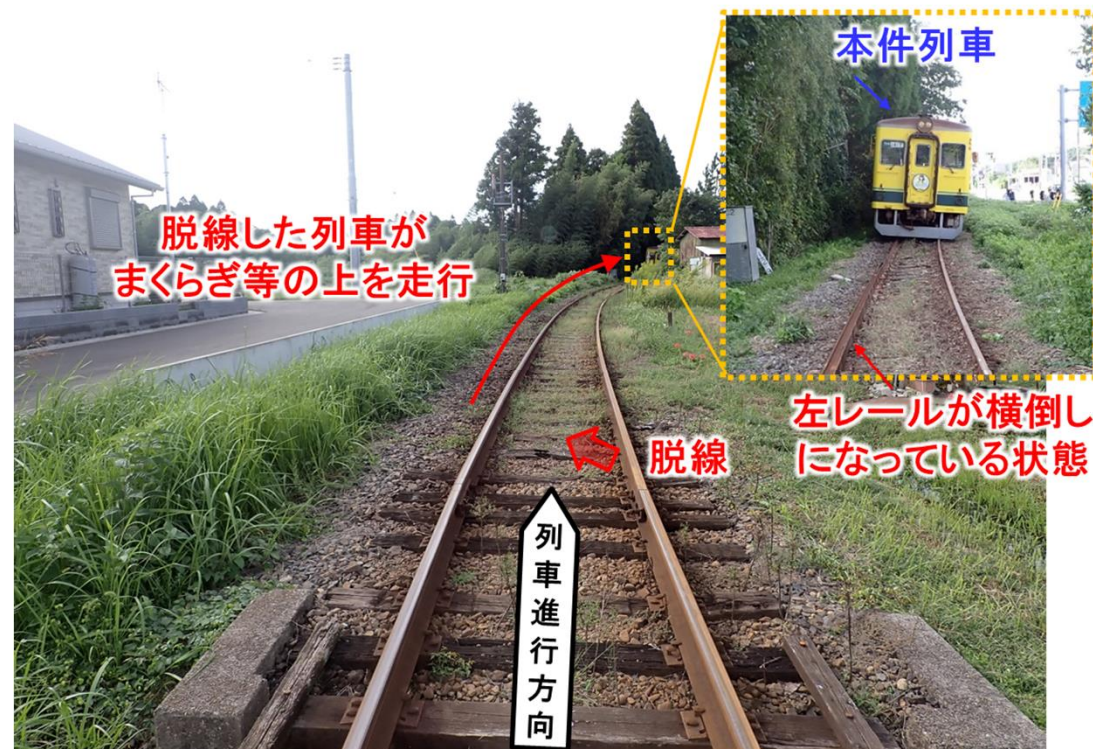
事故の概要

- ◆ 発生日時: 令和6年10月4日 08時06分頃
- ◆ 発生場所: いすみ線 国吉駅くによし～上総中川駅かずさなかがわ間
(千葉県いすみ市)
- ◆ 概要: 本件列車(2両編成)が速度約41km/hで半径300mの右曲線を走行中、先頭車両の後台車全2軸及び、後部車両の全4軸が左側に脱線した。列車には、乗客104名、運転士1名が乗車していたが、負傷者はいなかった。

《本事故における軌間内脱線のイメージ》



《事故現場の状況》



曲線中の軌間変位が大きかった。

腐食やひび割れが発生しているまくらぎが連続していた。

➡ 軌間が大きく拡大 ➡ 軌間内脱線

いすみ鉄道株式会社 いすみ線 列車脱線事故(2/2)

事故の原因

- ◆ 本事故は、列車が半径300mの右曲線を走行中に、軌間が大きく拡大したため、先頭車両の後台車第1軸の右車輪が軌間内に落下し、以降の先頭車両後台車第2軸及び後部車両の各輪軸も追従して右車輪が軌間内に落下したことによるものと考えられる。
- ◆ 軌間が大きく拡大したことについては、同曲線中の静的軌間変位が大きかったことに加えて、軌道整備基準値を超える通り変位があり、さらに、腐食やひび割れが発生しているまくらぎが連続していたため、列車走行時の横圧によるレール小返り等で軌間が動的に拡大したことによるものと考えられる。
- ◆ 静的軌間変位が大きかったことについては、再検査での測定値が小さくなる誤差が発生していた可能性が考えられ、定期検査で把握した必要な軌間変位の補修ができていなかったことによるものと考えられる。
- ◆ 腐食やひび割れが発生しているまくらぎが連続していたことについては、定期検査等で脱線の危険性がある連続した不良まくらぎを把握し、それに応じたまくらぎの交換又はPCまくらぎ化が十分に行われていなかったことによるものと考えられる。

運輸安全委員会が必要と考える再発防止策

・着実な軌道変位の補修 ・まくらぎの適切な管理 ・線路の保守体制の改善

いすみ鉄道への勧告

- ① 軌道変位を補修する軌道整備基準値を再検証し見直すこと等も含め、適正な軌道変位の管理方法を検討し、規定に基づき適切に軌道変位の管理・補修を行うことができる体制を構築すること。
- ② 平成30年6月28日に運輸安全委員会が国土交通大臣に対し発出した意見の別添「軌間拡大による列車脱線事故の防止について」に記した対策を踏まえ再発防止に向けた必要な措置を検証し、PCまくらぎ化等についてできるだけ早期に実施できるよう計画を策定すること。

なお、上記の施策を実施するに当たっては、国や関係自治体からの協力を得つつ、社外からの知見を得るための技術支援等を積極的に活用していくことが望ましい。